

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区九段北1-8-10

今週の注目材料 = 米・欧中銀トップの発言に注目

2022年4月18日

世界的に物価高が進み、大幅利上げへの期待も広がる中、21日(日本時間22日午前2時)に米パウエルFRB議長とECBのラガルド総裁がIMFの主催するパネル討論会に出席します。

米国は12日に発表された3月の消費者物価指数が前年比8.5%と、2月の7.9%から大きく上昇。市場予想の8.4%も超える伸びとなりました。雇用市場が堅調で、1日に発表された3月の雇用統計で示された平均時給が前年比5.6%の伸びとなるなど、賃金水準も上がっているとはいえ、インフレ調整後の所得は低下傾向。個人消費を見ても、インフレ調整をかけた個人消費支出は低下しており、物価高の家計に及ぼす悪影響が懸念されているだけに、今後の大幅利上げが期待される状況となっています。

FRB関係者の発言も、こうした状況を受けて引き締めはかなり前向きになっています。今年のFOMC投票権を持つメンバーの中では、超ハト派といわれるブレイナード理事の次ぐらにはハト派という印象のあるウィリアムズNY連銀総裁が、14日に5月のFOMCでの0.5%利上げについて、「妥当な選択肢」と大幅利上げを支持する発言を行うなど、米FRBの中も積極的な引き締めに向けた動きで固まっていると見られます。

金利先物市場動向からみた利上げ見通しを示すCMEFedWatchを確認すると、5月の0.5%利上げは90%以上織り込まれています。6月のFOMCでも0.5%以上の利上げを行うという見通しも90%を超えています(ちなみに25%程度は0.75%の利上げを見込んでいます)。こうした中、市場が今注目しているのが、5月以降のFOMCでどこまで大幅利上げが続くのか。年内あと6回あるFOMCですべて0.5%の利上げを実施すると、年末には政策金利が3.25%-3.50%となります。

今年の投票権を持つ地区連銀総裁は偶然タカ派なメンバーがそろっていますが、その中でも特にタカ派として知られるセントルイス連銀のブラード総裁ですら、年末までに3.00-3.25%が望ましいとしているように、年内すべてのFOMCでの大幅利上げまではFRBも市場も今のところは見込んでいません。

先ほどのCMEFedWatchをみると年末時点で2.50-2.75%と2.75-3.00%の見通しが拮抗している状況。残り年6回すべてのFOMCでの利上げを織り込み、その中で3回もしくは4回大幅利上げに踏み切る回があるといった見通しという状況です。

こうした市場の積極的な引き締め期待が強まる中、FRB関係者の発言への注目度が高まっています。中でもパウエル議長の発言はかなりの注目を集めそうです。

一方ECBは引き締めの動きも、慎重姿勢を崩していません。注目された14日のECB理事会では、現行の資産購入プログラム(APP)の縮小方針を示し、終了については第3四半期に終了する可能性が強まったとしました。終了の可能性が強まったとの表現があるものの、時期的には前回のガイダンスを維持した形で、終了についての判断は6月のECB理事会で行うとしています。

利上げについては、主要金利の調整は資産買い入れプログラム終了後しばらくしてか

ら実施としています。

ユーロ圏の3月の消費者物価指数が前年比7.5%と、2月の5.9%から大きく上昇。ユーロ圏最大の経済大国ドイツでも3月の消費者物価指数(EU基準)が前年比7.6%と2月の5.5%から一気に上昇するなど、ここに来てユーロ圏の物価上昇がかなりの激しさを見せる中、市場は利上げの前倒しに向けた動きを期待していました。それだけに、当初見込まれていた9月と12月に利上げを実施という見通しを補強するような声明に失望感が広がりました。

理事会後のラガルド総裁会見では、資産買い入れの終了について、第3四半期のいつの時点でも可能。利上げ開始のしばらくという期間について、明確な時間枠はなく、数週間もしくは数か月後になる可能性と発言しました。これにより理論上は7月の利上げも可能になります。

ただ、声明、会見を合わせてみた感想としては、米国などに比べて積極性が弱いという印象に。同席するパネル討論会の中で、パウエル議長が積極的な引き締め姿勢を示した時、ラガルド総裁がどのような発言を行うのが注目されるどころです。

パウエル議長とラガルド総裁の引き締めに向けた温度差が強調されると、ユーロ売りドル買いの動きが強まります。ラガルド総裁が積極的な引き締め姿勢を示し、温度差がそれほど感じられないようだと、ユーロの買い戻しもありそう。世界中の注目を集めるパネル討論会となりそうです。

山岡和雅 | MINKABU PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。